

5 用語解説

あ行

アダプトプログラム【P13,27,36,46,55,61,116】

市民と市が協力し合い、まちの環境美化を推進していくため、道路、公園、河川などの公共施設を市民が美化ボランティアとなって管理していく制度。アダプトとは、英語で「養子縁組をする」という意味があり、美化ボランティアが「里親」となり、道路、公園、河川などを「養子」とみなして清掃・美化活動を行う。

エコアクション 21【P61,117】

中小企業などにおいても容易に環境配慮の取組を進めることができるよう、環境マネジメントシステム、環境パフォーマンス評価及び環境報告をひとつに統合した環境配慮のツール。

エコドライブ【P16,19,30,31,32,73,101】

地球温暖化防止のために、環境負荷の軽減に配慮した自動車運転の方法。アイドリングストップ、加減速の少ない運転、タイヤの空気圧の適正化などを心がけるもの。

温室効果ガス【P7,10,12,14,27,28,63,66,69,70,71,94,108,109,115,123,124,125,126】

太陽からの熱を地球に封じ込め、地表を暖める働きがあるガスのこと。このガスにより地球の平均気温は 14℃前後に保たれているが、仮にこの温室効果ガスが全く存在しなければ、地球の平均気温は -19℃になるといわれている。「地球温暖化対策の推進に関する法律（温対法）」では、二酸化炭素（CO₂）、メタン（CH₄）、一酸化二窒素（N₂O）のほか、ハイドロフルオロカーボン類（HFC）、パーフルオロカーボン類（PFC）、六ふっ化硫黄（SF₆）、三ふっ化窒素（NF₃）を加えた 7 ガスが削減対象の温室効果ガスと定められている。

か行

カーボンニュートラル【P7,14,60,63,68,70,82,83,84,85,89,108,124】

CO₂ をはじめとする温室効果ガスの「排出量」から、植林、森林管理等による「吸収量」を差し引いて、合計を実質的にゼロにすること。

外来種【P36,50】

もともとその地域にいなかったのに、人間の活動によって他の地域から入ってきた生物。

気候変動適応情報プラットフォーム【P48】

環境省が開設している気候変動の影響への適応に関する情報を一元的に発信するポータルサイト。気候リスク情報の提供を通じ、地方公共団体や事業者等が気候変動の影響への適応に関する取組を促進する基盤。

クールビズ・ウォームビズ【P31,33,72,123】

過度な冷暖房に頼らず様々な工夫をして夏や冬を快適に過ごすライフスタイル。

グリーンインフラ【P33,77,82】

自然環境が有する機能を社会における様々な課題解決に活用しようとする考え方であり、社会資本整備や土地利用の手法。

グリーン購入【P33,61,115】

製品やサービスを購入する際に、その必要性を十分に考慮し、購入が必要な場合には、できる限り環境への負荷が少ないものを優先的に購入すること。

光化学オキシダント【P13,46,51】

工場の煙や自動車の排気ガスなどに含まれている窒素酸化物（NO_x）や炭化水素（HC）が、太陽からの紫外線を受けて光化学反応を起こし生成される酸化力の強い物質を総称して、光化学オキシダントという。

公募設置管理許可制度（Park-PFI）【P62】

都市公園において、飲食店、売店等の公園利用者の利便向上に資する公園施設（公募対象公園施設）の設置又は管理を行う民間事業者を、公募により選定する制度。

コジェネレーション【P72】

発電と同時に発生した排熱も利用して、冷暖房や給湯などの熱需要に利用するエネルギー供給システムで、総合熱効率の向上を図るもの。

コミュニティバス【P30】

地方自治体がまちづくりなど住民福祉の向上を図るため交通空白地域・不便地域の解消、高齢者等の外出促進、公共施設の利用促進を通じた「まち」の活性化等を目的として、自らが主体的に運行を確保するバスのこと。

さ行

サーマルリサイクル【P10,33】

廃棄物から熱エネルギーを回収し、廃棄物発電、施設内の暖房・給湯、温水プール、地域暖房等に利用すること。

再生可能エネルギー（再エネ）

【P10,16,29,30,32,33,70,71,77,79,81,84,85,98,101,104,106,109,116,121,124,126】

石油や石炭、天然ガス等の一度利用するとなくなってしまう化石エネルギーとは違い、太陽光や風力、水力、地熱など、一度利用しても比較的短期間に再生が可能であり、資源が枯渇せずに繰り返し利用できるエネルギーのこと。

次世代自動車【P16,30,32,73,77,82,84,85,101,109,116,126】

走行時の CO₂ 排出量が少ない、もしくは排出量ゼロの自動車。ハイブリッド自動車（HV）プラグインハイブリッド自動車（PHV）、電気自動車（EV）、燃料電池自動車（FCV）などがある。

指定暑熱避難施設（クーリングシェルター）【P27,46,48】

気候変動適応法に基づいて、適当な冷房設備を有する等の要件を満たす施設を、誰もが利用できる暑さをしのげる施設として、市町村長が指定した施設。

食品ロス【P11,21,15,31,43,72,97,101,105,110,122】

まだ食べられるのに廃棄される食品。

森林環境譲与税【P82】

温室効果ガス排出削減の目標の達成や災害防止等を図るための森林整備等に必要な地方財政を安定的に確保することを目的として、平成 31 年 3 月に成立した「森林環境税及び森林環境譲与税に関する法律」により市町村と都道府県に対して譲与される税。市町村は「森林の整備に関する施策」と人材育成・担い手の確保、木材利用の促進や普及啓発等の「森林の整備の促進に関する施策」に充てることができる。

水質階級【P12】

きれいな水でしか生きることのできない生物や、汚い水でも生きることができる生物など、水質の程度をあらわす 29 種の生物（指標生物）を用いて、その水域の水のきれいさをⅠ～Ⅳという 4 つの階級に分類したもの。

ストーカ炉【P45】

火格子の上でゴミを少しずつ送り出しながら燃やす方式の廃棄物焼却炉。火格子上でゴミが攪拌されるので安定して燃やすことができるというメリットがある。

生物多様性【P6,7,10,15,18,21,22,23,27,34,35,36,50,74,80,81,94,97,98,104,110,116,121】

生きものたちの豊かな個性とつながりのことで、生態系の多様性（山・川・海・まちなど、たくさんの種類の自然環境があること）、種の多様性（動物・植物・昆虫など、たくさんの生きものがいること）、遺伝子の多様性（色・形・模様など、たくさんの個性があること）という 3 つの多様性から成り立っている。

ゼロカーボンシティ【P3,7,14,22,23,28,29,59,74,75】

脱炭素社会に向けて、2050 年カーボンニュートラル（二酸化炭素実質排出量ゼロ）に取り組むことを表明（ゼロカーボンシティ宣言）した地方公共団体のこと。

た行

脱炭素

【P3,7,14,15,16,17,22,23,26,28,29,30,31,32,33,62,69,70,74,75,76,77,78,79,80,81,82,83,84,85,109,112,126】

経済活動や日常生活などから発生する二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの排出量がゼロであること。

地域マイクログリッド（自立分散型地域エネルギーシステム）【P30,51,77,74,79】

太陽光発電など地域で作ったエネルギーを地域で使うために、需要設備、再エネ設備、蓄電池等を 自営線で繋いで構築するエネルギーシステム。

地球温暖化【P6,7,14,15,19,20,23,28,59,61,63,70,71,94,97,106,109,111,123,124,127】

二酸化炭素、メタンなどの温室効果ガス濃度の上昇や、二酸化炭素の吸収源である森林の減少などにより、地球規模で気温や海水温が上昇する現象のこと。

低公害車【P12】

次世代自動車と同じく、走行時の CO₂ 排出量が少ない、もしくは排出量ゼロの自動車。

適応策【P7,12,27,46,47,48,49,50,51】

地球温暖化による気候変動によって起こりつつある災害や影響等への対策や備えを実施することで、地球温暖化の悪影響を軽減する（または温暖化の好影響を増長させる）取組。

デコ活（脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動）【P31,75】

2050 年カーボンニュートラル及び 2030 年度削減目標の実現に向けて、国民・消費者の行動変容、ライフスタイル変革を強力に後押しするための国民運動。

デコ活という略称は二酸化炭素(CO₂)を減らす(DE)「脱炭素(Decarbonization)」と、環境に良い「エコ(Eco)」を含む「デコ」と「活動・生活」を組み合わせた言葉。

豊川市こだわり農産物【P30,39】

減農薬・減化学肥料で栽培された安全・安心でおいしい野菜や米を提供するため、豊川市こだわり農産物審査委員会で厳選なる審査を行い、合格したものを「こだわり農産物」として認証シールを貼って販売している。

特定外来生物【P21,36,50,101,110,116】

外来生物（海外起源の外来種）であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるもののうち、外来生物法により指定された生物。特定外来生物に指定された生物の取扱いについては、輸入、放出、飼養等、譲渡し等の禁止といった厳しい規制がかかる。特定外来生物は、生きているものに限られ、個体だけではなく、卵、種子、器官なども含まれる。

な行

燃料電池【P30,33,79,111,127】

水素と空気中の酸素を化学反応させて電気を作る発電装置のことをいう。水の電気分解の逆反応を用いたもので、反応によって生成するのは水だけなので現在の化石燃料に取って代わるクリーンなエネルギーとして注目されている。電気自動車や家庭用コージェネレーション発電などへの応用が主に研究されているが、IT の分野でも携帯電話やノートパソコンのバッテリーとしても使用可能な大きさの小型燃料電池の開発が進められている。

は行

パーク&ライド【P30】

自動車を駅周辺の駐車場に停めて（Park）、電車やバスに乗り換えてもらう（Ride）ことで、自動車利用を抑制するための方策の1つである。

バイオマス【P32,38,81,83,109】

生態学で生物（bio）の量（mass）を示す用語で、化石燃料を除く動植物に由来する有機物である資源のこと。エネルギーになるバイオマスの種類としては、木材、生ごみ、紙、動物の死骸・糞尿、プランクトンなどの有機物がある。

バイオマスコークス【P33】

植物性廃棄物（間伐材、製材廃材、食品加工の廃棄物等）を再利用してつくられる石炭のコークスの代替燃料。

ハザードマップ【P48,50,107,127】

自然災害による被害の軽減や防災対策に使用する目的で、被災想定区域や避難場所・避難経路の位置など防災関係情報を表示した地図。

バスロケーションシステム【P30】

バスの走行位置情報を把握し、主要な停留所の案内表示板、インターネット、携帯電話などを通じて、バスの到着予測時刻及びバスの走行位置をバス利用者が手軽に確認することができるサービス。GPS や無線通信機器を車両に搭載し、運行状況をリアルタイムに把握し、バス利用者に提供することで利便性の向上を図ることを目的とする。

ビオトープ【P37】

湿性地、草地、雑木林、水田など、さまざまな動植物が生息・生育する空間のこと。

ホームエネルギーマネジメントシステム（HEMS）【P30,72,84,111】

住宅向けのエネルギーの効率的な利用、いわゆる省エネルギーを図るシステムのこと。住宅で使用される機器や設備を一元化し、エネルギーの使用量を居住者に見える化するとともにエネルギーの使用と管理を高効率に行う機器やシステムのことを指す。

ま行

緑のカーテン【P19,27,30,33,51,58,101,109,116】

夏の高温時に、太陽光の遮断や断熱によって建物の温度上昇を抑えることを目的に、建物の外側に植物を生育したり、外壁につる植物などを繁茂させてつくる自然のカーテン。

や行

ユニバーサルデザイン【P46】

言葉の違いや利き手、障害の有無、老若男女に関わらず、全ての人が使いやすいデザインという考え方や、その考えに沿って作られた物やまちを表す。

アルファベット

BCP（事業継続計画）【P47,51,127】

企業等が自然災害などの緊急事態に遭遇した場合において、事業資産の損害を最小限にとどめつつ、中核となる事業の継続あるいは早期復旧を可能とするために、平常時に行うべき活動や緊急時における事業継続のための方法、手段などを取り決めておく計画。

BEMS（ビルエネルギーマネジメントシステム）【P72,127】

オフィスビルのエネルギーの効率的な利用、いわゆる省エネルギーを図るシステムのこと。オフィスビルなどで使用される機器や設備を一元化し、エネルギー使用と管理を高効率に行う機器やシステムのことを指す。

BOD75%値【P13】

BOD は Biochemical Oxygen Demand の略で、生物化学的酸素要求量のこと。水中の有機物が微生物によって分解されるときに消費される酸素の量で表され、数値が小さいほど水質が良いとされている。75%値とは、年間を通して観測したデータのうち、小さい方から数えて全体の 75%に当たる数値。

FEMS【P72】

FEMS は Factory Energy Management System の略で、工場における生産設備、空調設備、照明設備等の稼働状況やエネルギー使用状況を把握し、エネルギー使用を最適に制御するシステムのこと。

ISO【P61,117】

ISO は International Organization for Standardization の略で、国際標準化機構のこと。国際的な非政府機関（民間機関）であり、製品及びサービスの国際貿易を容易にし、知的・科学的・技術的・経済的活動分野における国際間の協力を推進するために、世界的な標準化とその関連活動の発展開発を図ることを目的としている。環境マネジメントシステムの規格である ISO14001、品質マネジメントシステムの規格である ISO9001 を制定している。

J-クレジット【P38】

国が温室効果ガスの排出削減量や吸収量をクレジットとして認証する制度である J-クレジット制度により、様々な取組による排出削減量をクレジットとして売買できるようにしたもの。

PDCA サイクル【P87】

計画を適切に進行管理し、成果を高めるための方法。計画（Plan）－実施（Do）－評価（Check）－改善（Action）の 4 段階を繰り返すことで業務の改善を図る。

SDGs（持続可能な開発目標）【P7,21,31,34,110】

持続可能な開発のための 2030 アジェンダに記載された 2030 年までの国際目標。持続可能な世界を実現するための 17 のゴール・169 のターゲットから構成され、地球上の「誰一人として取り残さない」ことを誓っている。

V2H (Vehicle to Home) 【P30】

電気自動車（EV）やプラグインハイブリッド車（PHEV）への EV 充電設備の機能と EV、PHEV を住宅用蓄電池として利用できる機能を併せ持つシステムのこと。V2H により EV、PHV に蓄えた電力を住宅用に利用することができる。

ZEB (ネット・ゼロ・エネルギー・ビル) 【P33,75,77,79,85】

先進的な建築設計によるエネルギー負荷の抑制やパッシブ技術の採用による自然エネルギーの積極的な活用、高効率な設備システムの導入等により、室内環境の質を維持しつつ大幅な省エネルギー化を実現した上で、再生可能エネルギーを導入することにより、エネルギー自立度を極力高め、年間で消費する正味エネルギー量が概ねゼロ以下になる建築物。

ZEH (ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス) 【P30,77,84】

高断熱・高気密化、高効率設備によって使うエネルギーを減らしながら、太陽光発電などでエネルギーをつくり出し、年間で消費する住宅の正味エネルギー量が概ねゼロ以下になる住宅。

数字

4R 【P10,19,21,40,41,43,60,104,110,121】

Refuse（リフューズ：断る）、Reduce（リデュース：減らす）、Reuse（リユース：再使用）、Recycle（リサイクル：再生利用）。